

自著を語る。



私の人生の十数年分が凝縮された著書です

— 図書の紹介をお願いします。

二〇〇九年八月出版の、私の初めての単著書二人で全部書いた本です。

私は仕事でベトナムに住んでいて、ベトナム人と結婚しました。結婚相手は、たまたまストリートチルドレンのケア活動をしている人でした。活動を手伝い、二人でNGOを立ち上げました。結局ベトナムには全部で十二年いました。

その活動のなかで得たデータをもとに、ベトナムの市民がストリートチルドレン問題の解決に努力していることを、学問的にまとめました。私の人生の十数年分が凝縮された著書です。

ドナーの皆さんへ伝えたい

— この図書は、先生の博士論文が元になっていますね。では、論文のテーマに、これを選んだ理由は？

NGOに寄付を下されるドナーの方々にベトナムのNGOの事情を理解してもらいたくてこのテーマを選びました。先に書きたいテーマがあって、どうやって表現しようかと考えた末、それを博士論文という枠に収めたわけです。

しかし、博士論文ですとどうしても内容が硬くて読みにくい。出版することになって、論文の体裁を整えるために書いた箇所は削除し、個人的な経験談も加えて一般の読者にわかりやすいよう工夫しました。

自分たちも苦しい生活のなかで

— 調査の中で、印象に残ったエピソードを教えてください。

ホーチミン市のストリートチルドレン十人の事例を詳しく調査しました。その一つに、小学生の男の子の家についての話があります。

両親ともに、元ストリートチルドレンでした。そういう二人が、スラム街の一角で出会って夫婦のようになりました。

父親は足に障害があつて歩けず、母親は病氣。自分たち自身も路上生活の苦しいなかで、川岸に捨てられていた赤ちゃんを拾って育てたのです。そして、道端で宝くじ売りしながら小学校に通わせていました。

この話が、印象に残っています。

三重大生へのメッセージ〜外国との接点を持つて！

— 三重大生へのメッセージをお願いします。

三重県内にいると、自分から積極的に努力しなければ外国との接点を持つことが難しいと思います。じつとこにいて周囲の日本人とだけ接していて何も生活に不自由ありません。でもたまには意識して、身近な外国の人たちと接する努力をしてみてください。きっと新発見があります。

そして、もし一歩踏み込んで日本で、あるいは途上国でボランティア活動をしてみたい、国際協力の仕事をしてみたいと思ったら、ぜひ相談に来てくださいね。



今回お話を伺った図書は、第8回日本NPO学会賞優秀賞を受賞しました。吉井先生、おめでとうございます！



2006年：施設の子どもたちへの聴き取り調査風景 (My Linh撮影)



2006年：大喜びでポーズを取る施設の女の子たち (My Linh撮影)



2005年：刺しゅうの職業訓練。みんなとても手先が器用 (Tho Mai撮影)

用語紹介

【ストリートチルドレン】

経済的に困窮し、学校に通わず道端を中心とする場所で物乞い、肩拾い、物売り、荷物運び、靴磨き、スリ、かっぱらい等の営利活動を行う、あるいはそのような状況に陥る危険性を持ち、生来の能力を発揮する機会に欠ける18歳以下の子どもたち。

【NGO】

非政府組織。平和・人権問題などで国際的な活動を行なっている非営利の民間協力組織。

「エヌジーオー【NGO】」日本国語大辞典 ジャパンナレッジ(オンラインデータベース) 入手先 (<http://www.jkn21.com>) (参照 2010-01-28)

【吉井美知子先生 PROFILE】

三重大学国際交流センター教授。現在は国際協力、市民社会等についての授業を担当するとともに、ベトナムのNGOについて専門に研究している。日本商社ベトナム駐在事務所所長やJICA専門家等の経歴を持つ。勤務の傍ら、ローカルNGO,FFSC(ホーチミン市ストリートチルドレン友の会)の経営にボランティア参加。

『立ち上がるベトナムの市民とNGO：ストリートチルドレンのケア活動から』

〈明石書店 2009.8〉
【所在】図・開架・図書
【請求記号】369.4/Y 88

吉井美知子 先生
国際交流センター教授

海外に興味を持っているかた、ボランティア活動をしてみたいと思っているかたに、お勧めの一冊です。著者の吉井美知子先生に、話を伺いました

これだけは読んでおきたい!!各 学部の先生からのオススメ本

READING LIST

共通教育 荻原眞先生



积徹宗 著
『宗教聖典を乱読する』
朝日新聞出版
【所在】図・開架・図書
【請求記号】161.9/Sh 12

ヒンズー教、神道、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教、仏教の聖典を抜き出し、解釈を加えている。とりわけ興味深いのは仏教の部分だ。自己の枠組みへの執着こそが苦の根源だという指摘は、自分自身に照らしてみても誠に納得できる指摘であるが、現代の若者、とりわけ人間関係に悩む(こたわる)若者にはあてはまると思う。現代の課題への言及も多く、決して読みにくくはない。

生物資源学部 伊藤進一郎先生



吹春俊光 著
『きのこの下には死体が眠る!?: 菌糸が織りなす不思議な世界』
技術評論社
【所在】図・開架・図書/
教・数学教育
【請求記号】474.8/F 73

ちょっと変なタイトルである。カビやキノコは、生態系の中で重要なはたらきをしているが、食用キノコには興味があっても、生態系に生活するきのこに興味を抱く人は少ないだろう。本書では、動物の死体が分解された跡に出てくるきのこに始まって、きのこは何か、その毒、生態系でのはたらきや分布、きのこが作る森などがわかりやすく解説されていて、読み物としても楽しめる書である。

工学部 阿部純義先生



マーカス・デュ・ソートイ 著:
富永星 訳
『素数の音楽』
新潮社
【所在】図・開架・図書/
教・数学教育
【請求記号】412.9/D 99

素数の神秘に取り組んだ偉大な人々と彼らの研究を辿る壮大かつ感動的な物語。古代ギリシア人にとって音楽は数学の一種だったようだけれども、本書は数学もまた音楽的であると感じさせてくれる。読後は、誰でもきっとリーマン予想についてもっと知りたくなるに違いない。学生の皆さんは、まずはラマヌジャンの「(全ての自然数の和) = 1/12」辺りから勉強を始めてみては?

医学部 富本秀和先生



野村総一郎 著
『「心の悩み」の精神医学』
PHP研究所
【所在】図・開架・図書
【請求記号】493.7/N 95

私は神経内科の医者であつて心の専門医ではないが、神経疾患の患者さんが精神症状を呈することもあるため、心の問題には興味をもっている。本書は心の問題をわれわれ専門外のものにもわかりやすく述べてくれている。実際の患者さんの例をあげて解説し、最後に良い医者の見分け方、といった怖いことも述べてある。肩が凝らず、寝転がりが読破できる良書である。

教育学部 松本昭彦先生



渡部泰明 著
『和歌とは何か』
岩波書店
【所在】図・開架・PB
【請求記号】911.101/W 46

三十一字の中に、枕詞や掛詞等の技法を駆使して表現する和歌は、感情の表出としては現代人には理解しにくい。現代人のみならず「昔の人にとっては、和歌で表現される「心」は、ときに縁遠くも感じられる、別次元のものであった。」「その両者の距離を、演技という視点でつなげてみたい」として、レトリックの技法と、歌合等の「行為としての和歌」に照準を合わせて考察する。

人文学部 野村耕一先生



上山安敏 著
『神話と科学:ヨーロッパ知識社会 世紀末~20世紀』
岩波書店
【所在】図・開架・図書
【請求記号】302.3/U 51

19世紀末から20世紀初めの世紀転換期ヨーロッパで展開した、知識社会の変動を鮮やかに描き出した名著である。マックス・ウェーバー「職業としての学問」(岩波文庫)という有名な講演録とあわせて読むと、現代へと通じる知的世界の血脈を深く知ることができると思う。私が学部学生の頃に読んで大きな影響を受けた書物のひとつである。